

実務経験のある教員による授業科目(総合政策学科2022年度以前入学生)

区分	2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通教育科目	「人間たれ」	「人間たれ」I	②	○									兼	鬼頭 浩文 他	1		
	情報と職業		2				○						兼	黒田 淳哉 柳瀬 元志	26		
	四日市学		2	○										岡 良浩 他	27		
	人権論	「人間たれ」II	2		○									兼	小林 慶太郎 他	30	
	地域社会と環境		2	○									兼	野呂 達哉	31		
	地域防災	防災とまちづくり	2	○									兼	鬼頭 浩文	32	オンデマンド	
	社会福祉概論		2		○									松本 彩月	40		
	科学的思考論		2	○									非	吉山 青翔	52		
	地学概論		2	○									非	森 康則	55	オンデマンド	
	生物と進化		2		○								兼	野呂 達哉	57		
	環境論		2		○								非	吉山 青翔	58		
	キャリア基礎 I	キャリア基礎b	②		○									三田 泰雅 他	60		
	国際協力研修		2		集									岩崎 祐子	65		
	インターンシップ	インターンシップa	2			▲							兼	岡 良浩 鬼頭 浩文	66		
	社会調査入門		2	○										三田 泰雅	67		
	社会調査の技法		2		○									三田 泰雅	68		
	ビジネスマナー		2		○								非	長野ゆき子	85		
	販売士講座		2			○							非	山川 和美	86		
	ビジネスコミュニケーション		2			○							非	長野ゆき子	87		
	ビジネスマネジメント		2					○						岩崎 祐子 二村 建也	89		
	おもてなし特別講義a		2			○								岡 良浩 川崎 綾子	91		
	検定英語 I		2					○					非	武藤 和成	100		
	検定英語 II		2						○				非	武藤 和成	101		
	メディアツールb		2		○								非	西尾 秀樹	103		
	メディアツールd		2				○						兼	柳澤 翔士	105		
	Webデザインb		2						○				非	堀内 敬弘	106		
	Webプログラミングb		2			○							兼	池田 幹男	108		
	インターネット論	ITリテラシー	2			○							兼	柳澤 翔士	109		
	学部専門教育科目	行政法		2				○							小林 慶太郎 中西 紀夫	189	
政策法務		警察行政と安全	2						○					小林 慶太郎	192		
地域福祉論			2			○								松本 彩月	195		
社会保障論			2				○							松本 彩月	196		
NPO論		市民とまちづくり	2				○						兼	小林 慶太郎 鬼頭 浩文	202		
マイノリティ政策		ダイバーシティ社会論	2	○										小林 慶太郎	203		
交通政策			2			○								本部 賢一	208	オンデマンド	
都市計画論		都市計画論	2						○					本部 賢一	209	オンデマンド	
金融論			2			○								岩崎 祐子	233		
簿記入門			2			○								二村 建也	237		
会計学総論			2			○								二村 建也	238		
財務諸表論			2				○							二村 建也	239		
ものづくり経営		商業簿記	2			○								二村 建也	244		

授業科目名	「人間たれ」		科目コード	171001	授業コード	115101	
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEF1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。						
授業計画	第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」 第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤） 第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村） 第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す						
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成						
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	情報と職業	科目コード	171204	授業コード	113806
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を志向した学修を通じて地域に貢献する人材になる。 ・地域の持続発展のために貢献できる。 				
授業のねらい	メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信をおこなっている方々からの声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・学びを地域に関連した研究活動や、作品制作活動、将来のビジョンに繋げる。 				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 ラジオ 第3講 グラフィックデザイン 第4講 舞台 第5講 TVディレクター 第6講 ケーブルテレビ 第7講 カメラマン 第8講 広告 第9講 イベントホール 第10講 新聞 第11講 シティプロモーション 第12講 情報と職業 1 第13講 情報と職業 2 第14講 情報と職業 3 第15講 まとめ ※講義順は変更の可能性があります。				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 次週の講義に関してインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料を見返し理解を深めること（90分）。				
成績評価方法	定期試験を行いません。受講態度と各回の講義で提出するレポートで評価し、合算します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。				
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニツッペーパーやレポートを提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツッペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ミニツッペーパー、レポート、ディスカッション				
実務経験のある教員	20年以上メディア業界で経験を積んだ専門家が、この講義の司会進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。				
担当者から一言	必要な作業以外でのスマートフォンの使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。				

授業科目名	四日市学	科目コード	171301	授業コード	115201
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	<p>この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。</p> <p>これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ</p>				
到達目標	<p>講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること 				
授業計画	<p>第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡・鬼頭)</p> <p>第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館)</p> <p>第3講(4/19) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部)</p> <p>第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義])</p> <p>第5講(5/10) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員)</p> <p>第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室)</p> <p>第7講(5/24) 「四日市の食」(小林[司会・講義]; とんてき協会関連)</p> <p>第8講(5/31) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部)</p> <p>第9講(6/07) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課)</p> <p>第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部)</p> <p>* 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。</p> <p>(フィールドワーク)</p> <p>第11~12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。</p> <p>第13~15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1~10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(50%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(20%)で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	115501
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。				
授業計画	<p>第1講（9/27） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/4） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎）</p> <p>第3講（10/11） ダイバーシティと「人間たれ」（小林）</p> <p>第4講（10/18） 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所）</p> <p>第5講（10/25） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林）</p> <p>第6講（11/1） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第7講（11/8） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田）</p> <p>第8講（11/15） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井）</p> <p>第9講（11/22） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田）</p> <p>第10講（11/29） 世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/6） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラマ・カンチャさん）</p> <p>第12講（12/13） 外国で働くということ（オイスカ）</p> <p>第13講（12/20） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井）</p> <p>第14講（1/10） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェハリー）</p> <p>第15講（1/17） 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。				
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。				
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	115307	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。授						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災	科目コード	171306	授業コード	115305
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)				
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。				
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/5 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害 2 4/12 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/19 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災ボラ/第17講；自主防 4 4/26 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/11 午前；防災士養成講座(会場研修)① 6 5/11 午後；普通救命講習(場所：体育館) 7 5/12 午前；防災士養成講座(会場研修)② 8 5/12 午後；防災士養成講座(会場研修)③ 9 5/18 午前；防災士養成講座(会場研修)④ 10 5/18 午後；防災士養成講座(会場研修)⑤ 11 5/24 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 5/31 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/7 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震への備え 14 6/14 第16講；風水害への備え/補講3；損保 15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士/補講4；訓練 学期末試験：6/28 ★8月3日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。				
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。				
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。				
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。				
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。				
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。				
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。				

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	171407	授業コード	111604	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GLAS1007			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（=欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	科学的思考論	科目コード	171601	授業コード	111409
担当教員	吉山 青翔	科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	本講義は、近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて、自然科学的な思考方法を展開します。				
到達目標	自然科学の全体的な姿を歴史的に把握する。 科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考、解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 古代オリエント科学の概観 第3講 古代ギリシア科学の概観 第4講 中世の科学と近代大学の誕生 第5講 近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第6講 地動説をめぐる科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第7講 万有引力法則の発見と近代力学の成立 第8講 中間テスト 第9講 理髪師から近代解剖学へ 第10講 血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講 酸素の発見と近代化学の成立 第12講 進化論の確立と近代生物学の成立 第13講 蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講 女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。				
事前・事後学習	事前・事後に授業の内容を確認すること（それぞれ30分程度）。				
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。				
授業内の課題・提出方法	授業後、授業の内容を確認し、質問等に関して、次週の授業前にミニレポートの形で提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったミニレポートに関して、授業中適宜にコメント・補足します。				
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心にし調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらおう。				
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。				
担当者から一言	人間社会に欠かせない人間の知力の1つ＝科学的思考力を身につけましょう。				

授業科目名	地学概論		科目コード	171606	授業コード	111101	
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	GLAN1006			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。						
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。						
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。						
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	生物と進化		科目コード	171608	授業コード	113510	
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GLAN1008			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一ら）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔ら）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境論		科目コード	171609	授業コード	111811	
担当教員	吉山 青翔		科目ナンバリング	GLAN1009			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史」の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。						
到達目標	環境問題の全体像を把握し、自分の環境観を形成する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「自然」の定義と仕組み 第3講 「環境」の定義と仕組み 第4講 「文化」の定義と仕組み 第5講 「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性 第6講 環境に関する人類の認識1：ヒポクラテスによる医学上の見解 第7講 環境に関する人類の認識2：C. ダーウィンによる生物学上の見解 第8講 中間テスト 第9講 環境に関する人類の認識3：C. ベルナルによる生理学上の見解 第10講 環境に関する人類の認識4：C. ラッツェルによる地理学上の見解 第11講 科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見 第12講 蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生 第13講 環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告 第14講 国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化 第15講 まとめ：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	参考資料 フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）、その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）。						
事前・事後学習	授業前に次回の授業内容を確認し、授業後に授業の内容を確認してください。（それぞれ20分程度）						
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関するミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で適宜にコメントします。						
アクティブラーニング	授業の内容に関するキーワードを中心に調べ、ミニツツペーパーの形にまとめ、提出してもらいます。						
実務経験のある教員	役場・民間企業等勤務経験あり。						
担当者から一言	現代社会に求められる現代教養の1つ＝環境観を持ちましょう。						

授業科目名	キャリア基礎 I		科目コード	171701	授業コード	111701	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECC1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。						
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる						
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて						
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。						
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）						
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。						
アクティブラーニング	小レポート グループワーク						
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。						
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。						

授業科目名	国際協力研修		科目コード	171803	授業コード	116501	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESC1003			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献）	（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。 （大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50％）活動日誌・レポート（50％） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50％）レポート（50％） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	インターンシップ	科目コード	171804	授業コード	116101
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。				
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	とくになし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	社会調査入門		科目コード	172101	授業コード	113206	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GSSR1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプリングの発展 8 公的統計の意義と活用（中間まとめ） 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法		科目コード	172102	授業コード	113605	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GSSR1002			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	172301	授業コード	115601	
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていけばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。 表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。						
到達目標	社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。 ①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流 ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学 ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方 ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方 ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語① ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語② ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現① ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現② ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相 ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮ 1/17 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。 復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。						
成績評価方法	定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニツツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	販売士講座		科目コード	172303	授業コード	114111	
担当教員	山川 和美		科目ナンバリング	GSHM1003			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということ、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代において注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。						
到達目標	<p>目標は以下の3点です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。 ● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。 ● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。 						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 講義の概要 第2講 ストアオペレーションのポイント① 第3講 ストアオペレーションのポイント② 第4講 ストアオペレーションのポイント③ 第5講 小売業の類型のポイント① 第6講 小売業の類型のポイント② 第7講 小売業の類型のポイント③ 第8講 マーチャンダイジングのポイント① 第9講 マーチャンダイジングのポイント② 第10講 販売・経営管理のポイント① 第11講 販売・経営管理のポイント② 第12講 販売・経営管理のポイント③ 第13講 リテールマーケティングのポイント① 第14講 リテールマーケティングのポイント② 第15講 まとめ 定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士3級ハンドブック（2冊セット）」キャリアック（2019年）						
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（1日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点						
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。						
アクティブラーニング	コメントシート グループワーク（初回のみ） 簡単な実習						
実務経験のある教員	郵政省での勤務経験や小売業界での販売経験を活かした講義や実習を行います。						
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション		科目コード	172304	授業コード	112402																																													
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GSHM1004																																															
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択																																												
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。																																																		
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者を目指して様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るく活き活きと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけ顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーション力に重点を置いたロールプレイング中心となります。担当講師は企業研修講師で実務経験者です。哲学や心理学を含めたエビデンスに基づく講義内容や豊富な経験に基づく多彩な話を織り込んだ講義内容です。																																																		
到達目標	コミュニケーションは人間関係づくりの基本であり欠かせないスキルです。そして実社会では、特に周りとの人間関係を有効に保ちながら主体的に生きるための土台となるものです。ビジネスにおけるコミュニケーションスキルの理論とスキルを実践的に学び、相手目線に立ち臨機応変に対応できるスキルを身に付けることが到達目標です。																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>① 4/9</td> <td>ガイダンスと仕事の意義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 4/16</td> <td>接客マナー「おもてなし」</td> <td>「おもてなしとマナー」</td> </tr> <tr> <td>③ 4/23</td> <td>パフォーマンス学</td> <td>場と関わりの自己表現</td> </tr> <tr> <td>④ 5/7</td> <td>おもてなしの技術①</td> <td>第一印象</td> </tr> <tr> <td>⑤ 5/14</td> <td>おもてなしの技術②</td> <td>接客力</td> </tr> <tr> <td>⑥ 5/21</td> <td>おもてなしの技術③</td> <td>電話・レター・メール</td> </tr> <tr> <td>⑦ 5/28</td> <td>おもてなしの技術④</td> <td>社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」</td> </tr> <tr> <td>⑧ 6/4</td> <td>コミュニケーションスキル①</td> <td>心理学TA</td> </tr> <tr> <td>⑨ 6/11</td> <td>コミュニケーションスキル②</td> <td>アサーション</td> </tr> <tr> <td>⑩ 6/18</td> <td>コミュニケーションスキル③</td> <td>セルフコーチングの基本</td> </tr> <tr> <td>⑪ 6/25</td> <td>ビジネススキル①</td> <td>説明力・説得力</td> </tr> <tr> <td>⑫ 7/2</td> <td>ビジネススキル②</td> <td>合意形成</td> </tr> <tr> <td>⑬ 7/9</td> <td>ビジネススキル③</td> <td>プレゼンテーションⅠ</td> </tr> <tr> <td>⑭ 7/16</td> <td>ビジネススキル④</td> <td>プレゼンテーションⅡ</td> </tr> <tr> <td>⑮ 7/23</td> <td>総復習</td> <td>おもてなし溢れるコミュニケーション</td> </tr> </table> <p>定期試験</p>						① 4/9	ガイダンスと仕事の意義		② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」	③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現	④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象	⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力	⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール	⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」	⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA	⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション	⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本	⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力	⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成	⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ	⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ	⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション
① 4/9	ガイダンスと仕事の意義																																																		
② 4/16	接客マナー「おもてなし」	「おもてなしとマナー」																																																	
③ 4/23	パフォーマンス学	場と関わりの自己表現																																																	
④ 5/7	おもてなしの技術①	第一印象																																																	
⑤ 5/14	おもてなしの技術②	接客力																																																	
⑥ 5/21	おもてなしの技術③	電話・レター・メール																																																	
⑦ 5/28	おもてなしの技術④	社会的ルールとモラル「コンプライアンス・リスク管理」																																																	
⑧ 6/4	コミュニケーションスキル①	心理学TA																																																	
⑨ 6/11	コミュニケーションスキル②	アサーション																																																	
⑩ 6/18	コミュニケーションスキル③	セルフコーチングの基本																																																	
⑪ 6/25	ビジネススキル①	説明力・説得力																																																	
⑫ 7/2	ビジネススキル②	合意形成																																																	
⑬ 7/9	ビジネススキル③	プレゼンテーションⅠ																																																	
⑭ 7/16	ビジネススキル④	プレゼンテーションⅡ																																																	
⑮ 7/23	総復習	おもてなし溢れるコミュニケーション																																																	
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。																																																		
事前・事後学習	<p>予習：次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習することです。 次回講義内容に関係した課題を調べることです。</p> <p>復習：毎回の授業で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をすることです。</p>																																																		
成績評価方法	<p>定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。</p> <p>小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。</p> <p>小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。</p>																																																		
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容を重要点をおさらいした後、小テストを実施します。丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。																																																		
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎回講義の初めに、前回講義内容の重点事項・小テスト内容の振り返り授業をします。学生に指名して解答していただき理解度を計ったり、グループディスカッションをして定着度を確認するときもあります。																																																		
アクティブラーニング	<p>毎回の講義内容により学習の形態を変えます。</p> <p>コメントシート・ミニッツペーパー。</p> <p>ディスカッション発表。</p> <p>プレゼンテーション実技発表。フィードバックワーク。</p> <p>ブルーワーク・ペアワーク発表。</p>																																																		
実務経験のある教員	民間企業勤務、企業研修講師。																																																		
担当者から一言	この授業はオペレーション演習を受講する前提となります。外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。																																																		

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	112103	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GSHM1007			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義の第2講～第6講（担当：岩崎）は、企業側の立場からみたコーポレートファイナンス（企業の資金調達）の基礎を学びます。 次に、第7講～第15講（担当：二村）は、企業が資金調達をするさいに重要になる、ファイナンスの考え方と経営計画・経営分析を学びます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コーポレートファイナンスの基本を理解する ・ファイナンス理論の基本的な考え方を理解する ・経営計画の基本を理解する ・経営分析の方法を理解する 						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 企業の資金構成 第3講 コーポレートファイナンスの実際1 第4講 コーポレートファイナンスの実際2 第5講 銀行の役割と課題 第6講 中間試験 第7講 現在価値と将来価値 第8講 リスク 第9講 利益とキャッシュのちがひ 第10講 信用 第11講 経営計画の策定1 第12講 経営計画の策定2 第13講 経営分析1 第14講 経営分析2 第15講 経営分析3・まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料は毎回プリントを配布する。 （参考文献） 西山茂「「専門家」以外の人のための決算書&ファイナンスの教科書」東洋経済新報社（2019年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分） 事後：授業の復習と関連情報の収集をする。上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、経営計画や経営分析を確認する（90分）						
成績評価方法	平常点（授業への積極的な参加、授業内レポートなど）40% 中間試験20% 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容に関する課題を出します。授業時間内に提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートなど課題は適宜コメントをします。						
アクティブラーニング	授業内レポートを複数回、提出してもらいます。						
実務経験のある教員	（二村）経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	コーポレートファイナンス、経営計画の策定、経営分析の知識はいずれも、広くビジネスの世界で求められるものです。進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	113407	
担当教員	岡 良浩		科目ナンバリング	GSHM1009			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われま。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。 具体的には「三重のサステナブル経営アワード」受賞企業や教員が推薦する企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。 そのうえで成功の要因や普遍化（共通する点、他企業・他業態への応用の可能性）を考察していただきます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。 						
授業計画	第1回 4/10 ガイダンス 第2回 4/17 外部講師による講義（三重県） 第3回 4/24外部講師（企業経営者）による講義 第4回 5/ 8外部講師（企業経営者）による講義 第5回 5/15外部講師（企業経営者）による講義 第6回 5/22中間レポート1 第7回 5/29外部講師（企業経営者）による講義 第8回 6/5外部講師（企業経営者）による講義 第9回 6/12外部講師（企業経営者）による講義 第10回 6/19中間レポート2 第11回 6/26外部講師（企業経営者）による講義 第12回 7/3外部講師（企業経営者）による講義 第13回 7/10 外部講師（企業経営者）による講義 第14回 7/17企業レポート作成 第15回 7/24企業レポート発表 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布予定です。 ※本学教員による講義に替えることがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポートおよび発表 30% 定期試験（レポート試験） 30%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただけます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
アクティブラーニング	企業講義のなかで、特定の課題についてグループワーク等の課題が提示されることがあります。その場合は状況に応じて積極的に行うことが求められます。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。						
担当者から一言	多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になります。就職活動にも役立ちます。外部の方々の中には、学生とほとんど接する機会のない方々もおられます。大人としてのマナーを守って受講してください。						

授業科目名	検定英語 I	科目コード	172409	授業コード	111405
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目ではいずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身につけておきたい即戦力の力となるスキルを修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、英語の大切な技能（聴く、読む、書く、話す）を「聴く」ことを中心に高め、仕事で、生活の中で使える英語を自分のものに高めることです。毎回、実際に使われる英語に耳を通して触れることによって、自然に、楽しく、無理なく英語を運用する力を高めていきます。「自然に、楽しく、無理なく」を大切に、総合的な英語力を獲得しましょう。				
到達目標	各自のスタートラインによって到達目標は設定されます。半年間のスパンでは、スタートラインから2段階以上向上しているでしょう。1年間のスパンでは、4～5段階は向上すると推測されます。「聴く力」の向上は英語力を高める大きな、強いエネルギーになります。 講座の到達目標としては、(TOEICを例にすると) 500点から800点オーバー（実際には昨年度の受講者は815点でした）となります。				
授業計画	第1講 講座ガイダンス Unit 1 第2講 Unit 2 ～ 第15講 Unit 15 それぞれの講座で 各Unitを完結させます。				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定の教材が改訂中ですので、今後指示、指定をします。				
事前・事後学習	語学のマスターには、日々の生活の中で取り組むことが大切です。生活の中で「これ、英語ではどのように表現するのかなあ」という素朴性を大切に、英語の学習を無理のないように、負担にならないように、学びたいという前向きな気持ちと同調して進めて下さい。				
成績評価方法	日常の努力（出席、学習姿勢）が50点、定期試験が50点、総合100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業中に指示をします。その指示に従って下さい。しかし、この講座では、特段の課題提出はありません。ほぼすべて、講座（授業）内で完結します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	特段の課題提出はありません。講座（授業）内で解決、完結します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）ほどイギリス、オーストラリア、ニュージーランドの学校で、英語でどのように生活し、ビジネスをするのかを学んできました。これらの経験を基本にこの講座は展開します。				
担当者から一言	自分のペースで、自分の目標に向けて、無理なく、楽しく、自然に英語力を向上させましょう。				

授業科目名	検定英語Ⅱ	科目コード	172410	授業コード	111804
担当教員	武藤 和成	科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	スキル科目では、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	検定英語のねらいは、生活の場面で、とりわけ会社での仕事の場面で実際に活用できる英語力を楽しく、無理なく、そして自然に身につくように高めることです。具体的には、「聴く」力を育成することを通して、「聴く、読む、書く、話す」力が総合的に身に付くようにしていきます。				
到達目標	受講者個々人のスタート段階を基準にして、半年後には驚くほどの進歩を体感することでしょう。段階としての体感進歩は2段階以上のアップ感ということになると思います。講座としての到達目標は、通常の日常会話にはよく対応でき、仕事での英語では、例えば、外国からのEメール等でのコミュニケーションには問題なく対応ができ、やり取りができるようになることです。数値的に表しますと、例えば、TOEICならば、500点から800点オーバー（815点）が昨年度までにこの講座の受講者が実現してきた到達段階です。各人が自己目標を実現してください。				
授業計画	第1講 ガイダンス 及び テキスト Unit 1 第2講 Unit 2 ~ 第15講 Unit 15				
テキスト・教材（参考文献）	使用予定のテキストが現在改訂中ですので、近日中に明示します。 参考文献として、自分に適した英和辞書、高校生以上を対象とした英文法書（大学受験用でも結構です）を活用下さい。				
事前・事後学習	特に必要ありませんが、語学学習の基本は、「生活の中で学び、身に付ける。」ということになります。日常生活の中で「これは英語だと、どのように表現するのかなあ。」という問題意識を高めて下さい。				
成績評価方法	平常点（出席、学習姿勢）が50点。定期試験が50点。総計100点満点で評価します。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて適宜指示します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	これまで20年間（20回）程、イギリス、ニュージーランド等の学校で、英語をどのように学習し、英語で生活し、ビジネスをするのかという授業に参加してきました。その基本をベースにこの講座は展開します。				
担当者から一言	「習うより慣れよ。」が語学学習の基本です。「楽しく、無理なく、自然に」英語学習を進めることで、実際に使える英語、仕事で役に立つ英語を身に付けましょう。				

授業科目名	メディアツールb	科目コード	172502	授業コード	115608
担当教員	西尾 秀樹	科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。				
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会 				
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。				
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 [これ面白い画像だな]とか[どうやって作ったんだろう]という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。				
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。				
アクティブラーニング	実習を行います。				
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。				
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	メディアツールd	科目コード	172504	授業コード	112604
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。				
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。				
授業計画	<p>・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品制作1※ 15.音作品制作2※ <p>定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。</p> <p>必要な資料は適時配布します。</p>				
事前・事後学習	<p>実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分)</p> <p>音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)</p>				
成績評価方法	<p>受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度)</p> <p>作品提出30%</p> <p>レポート・定期試験40%</p>				
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーの指定フォルダに提出</p> <p>授業外では、Moodleやメールを利用。</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>講評が必要なものは、当日・翌週に講評。</p> <p>質問などのフィードバックは適時行う。</p>				
アクティブラーニング	Mac実習				
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有				
担当者から一言	<p>音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。</p> <p>共に音楽を学びましょう。</p> <p>※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。</p>				

授業科目名	Webデザインb	科目コード	172506	授業コード	111609
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウィルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	<p>Macを用いた演習を行います。</p> <p>第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め</p> <p>第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング</p> <p>第3講 ワイヤフレーム制作①</p> <p>第4講 ワイヤフレーム制作②</p> <p>第5講 デザイン制作①</p> <p>第6講 デザイン制作②</p> <p>第7講 デザイン制作③</p> <p>第8講 デザイン制作④</p> <p>第9講 デザイン制作⑤</p> <p>第10講 デザイン制作⑥</p> <p>第11講 デザイン制作⑦</p> <p>第12講 デザイン制作⑧</p> <p>第13講 デザイン制作⑨</p> <p>第14講 プレゼンテーション準備</p> <p>第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ</p>				
テキスト・教材（参考文献）	特になし				
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック 				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません 				
授業内の課題・提出方法	<p>提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ</p> <p>提出方法：講義時にデータにて提出</p>				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
アクティブラーニング	Macを用いた演習				
実務経験のある教員	デザイン会社代表				
担当者から一言	<p>Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。</p> <p>Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。</p>				

授業科目名	Webプログラミング b		科目コード	172508	授業コード	113403	
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GSMD1008			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれら进行操作するプログラミングや、CanvasAPIを使用したグラフィック进行操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。						
到達目標	JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。						
授業計画	第1講 ガイダンス Moodle の使用法 第2講 JavaScript を使用した動的なウェブページの例 第3講 アウトプットの基本 第3講 JavaScript の文法と基本的な機能① 第4講 JavaScript の文法と基本的な機能② 第5講 JavaScript の文法と基本的な機能③ 第6講 JavaScript の文法と基本的な機能④ 第7講 インプットとデータの加工① 第8講 インプットとデータの加工② 第9講 一歩進んだテクニック① 第10講 一歩進んだテクニック② 第11講 JQuery入門 第12講 Canvas API ① 第13講 Canvas API ② 第14講 応用課題① 第15講 応用課題② 授業はいずれも P C を用いた実習です。						
テキスト・教材（参考文献）	『確かな力が身につく JavaScript 「超」入門』第二版、狩野 祐東 著、SBクリエイティブ刊、ISBN978-4-8156-0157-7、定価2480円＋税 必要な教材はMoodleでも提示します。						
事前・事後学習	教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer などのオンライン教材の解説や例を予習（毎週90分）復習として例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作る（毎週90分）ことを推奨します。						
成績評価方法	毎回の授業の演習課題（70%）と、授業への参加態度（30%）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム（Moodle）に毎回課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。						
アクティブラーニング	ほぼ毎回の課題提出						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「Webプログラミングa」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分からなくなります。また、自分でプログラムを作成しないと身に付きません。						

授業科目名	インターネット論	科目コード	172509	授業コード	113402
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。				
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。				
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税				
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)				
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%				
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有				
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。				

授業科目名	行政法	科目コード	471205	授業コード	115803
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	PPT2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる				
授業のねらい	<p>この授業では、行政と法の関係について扱っていきます。行政の様々な活動は、様々な法的な規範によって規定されています。</p> <p>ゲストスピーカーとして、現在四日市市の職員として働いている本学卒業生（清水さん、中村さん、室田さん、田端さん）にも登壇いただき、行政の最前線で、法的な規範がどのように使われているか、お話いただけます。将来、公務員になることを考えている学生はもちろんのこと、民間企業に就職する学生も、私たちの生活が、いかに法的な規範とは切っても切れない関係にあるのか学び取ってくださることを、ねらいとしています</p>				
到達目標	法的な規範の効力や意義を知り、日常生活においても法的な規範の存在を意識できるようになることが、この授業の到達目標です。				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス～「行政法」について～（小林）</p> <p>第2講 法学の中の行政法（中西）</p> <p>第3講 法令と条例（小林）</p> <p>第4講 四日市市の産業と法規制（清水）</p> <p>第5講 選挙活動と公職選挙法（中村）</p> <p>第6講 都市計画と法律（清水）</p> <p>第7講 公共施設の指定管理（中村）</p> <p>第8講 ふるさと納税制度と四日市市（清水）</p> <p>第9講 夜の街と法規制（室田）</p> <p>第10講 生活保護行政と法（室田）</p> <p>第11講 市民協働を促進するための条例（室田）</p> <p>第12講 文化行政と法（田端）</p> <p>第13講 観光・シティプロモーションと法（中村）</p> <p>第14講 公営ギャンブルと法（清水）</p> <p>第15講 行政・まちづくりと法規範（小林）</p> <p>定期試験（レポート提出）</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、日程や内容が変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使いません（必要に応じて資料を配布する場合があります）				
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の地域・行政に関するニュースに目を通すこと（毎日30分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは、授業中に紹介する参考文献等で調べておくこと（60分）。				
成績評価方法	<p>欠席4回以上の者には、原則、単位は与えません。なお、課題・宿題の提出内容が著しく酷い場合や、授業中に寝ているなど受講態度が悪い場合には、欠席扱いとすることがありますので注意してください。成績は以下の配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組姿勢および講義時に指示する簡単な課題の提出状況：75% ・定期試験（レポート）：25% 				
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題（小レポート）を提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。				
アクティブラーニング	原則として毎回、小レポートを書いていただきます。				
実務経験のある教員	ゲストスピーカーの4人の方は、いずれも現役の市役所職員であり、市役所での実務に基づいた講義をしていただけます。				
担当者から一言	<p>学問としての行政法だけではなく、実際の行政・まちづくり活動の視点から、法について講義を行います。</p> <p>※ 本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定科目です。</p>				

授業科目名	政策法務	科目コード	471208	授業コード	112804
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	PPT3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる				
授業のねらい	<p>将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらうことを、そのねらいとしています。</p> <p>防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。</p>				
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。				
授業計画	<p>第1講（9/24）ガイダンス（この授業の進め方）</p> <p>第2講（10/1）忘れ物や落とし物（拾得・遺失物）</p> <p>第3講（10/8）交通安全の意識啓発と施設整備</p> <p>第4講（10/15）夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 柳川さん）</p> <p>第5講（10/22）交通事故の捜査</p> <p>第6講（10/29）刑法と刑事訴訟法</p> <p>第7講（11/5）犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん）</p> <p>第8講（11/12）ストーカー・DV及び児童虐待について</p> <p>第9講（11/19）少年非行・少年犯罪と補導・更生</p> <p>第10講（11/26）刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん）</p> <p>第11講（12/3）身近な警察 交番・駐在所</p> <p>第12講（12/10）犯罪防止に向けた対策の推進</p> <p>第13講（12/17）警察と協力した防犯活動（四日市北防犯協会 松岡さん）</p> <p>第14講（1/7）警察事務と被害者支援</p> <p>第15講（1/14）授業の振り返りと課題の指示</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。				
事前・事後学習	<p>日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。</p> <p>また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。</p>				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：45% ・ 定期試験（自筆ノートのみ持込可）：55% 				
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニッツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニッツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。				
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニッツペーパーを提出してもらいます。				
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。				
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。				

授業科目名	地域福祉論	科目コード	471211	授業コード	115306
担当教員	松本 彩月	科目ナンバリング	PCD2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。				
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。				
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要（地域福祉とは） 第2講 コミュニティとネットワーク 第3講 地域福祉の財源 第4講 地域福祉の主体や担い手 第5講 地域福祉をプロ野球から考える ゲストスピーカー 第6講 災害と地域福祉 小レポート-1 第7講 ボランティア 第8講 少子高齢化 第9講 子育て支援と地域福祉 第10回 社会的養護と子どもの貧困 第11回 当事者組織・セルフヘルプグループ 小レポート-2 第12回 協同組合 第13回 社会的孤立と社会的排除 第14回 生活保護 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。				
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）				
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。				
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション				
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本） プロ野球球団関係者をゲストスピーカーとして招へい予定です。				
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。				

授業科目名	社会保障論		科目コード	471212	授業コード	111807	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PCD2005			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。						
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講 社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講 社会保障の法と財政 第4講 公的年金って？ 第5講 医療保険って？ 第6講 介護保険って？ 小レポート-1 第7講 働くことと社会保障 第8講 生活保護 第9講 社会福祉 第10講 災害と社会保障 第11講 住まいは人権 小レポート-2 第12講 貧困と社会保障 第13講 多国籍社会の社会保障 第14講 ジェンダーと社会保障 第15講 ひとり親と社会保障 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年） 棕野美智子ほか『はじめての社会保障』有斐閣（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会保障制度を知ることが今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	NPO論		科目コード	471222	授業コード	115704	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PCO2005			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける						
授業のねらい	<p>この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。</p> <p>今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	<p>第1講（9/27）ガイダンス（鬼頭・小林）</p> <p>第2講（10/4）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長）</p> <p>第3講（10/11）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第4講（10/18）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林）</p> <p>第5～6講（10/19）フィールドワーク（JAZZフェスの見学・スタッフ参加を2コマとしてカウント）</p> <p>第7～8講（10/20）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を2コマとしてカウント）</p> <p>第9講（10/25）スポーツクラブ経営（ヴィアティン三重社長）</p> <p>第10講（11/1）スポーツクラブとまちづくり（ヴィアティン三重スタッフ）</p> <p>★11/8、11/15、11/22、11/29の4回はお休みです。</p> <p>第11講（12/6）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員）</p> <p>第12講（12/13）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者）</p> <p>第13講（12/20）サンタ電車運行準備と打ち合わせ</p> <p>第14～15講 フィールドワーク（a, bいずれかを選択）を2コマとしてカウント</p> <p>a：ヴィアティン三重ホームゲームの集客企画や観客満足度アップ事業の手伝い（11/3、11/10、11/17、11/24に開催される試合のうち、ホームの試合を1日手伝う） b：12/21北勢線サンタ電車でサンタコースになって子どもにプレゼント配布★1/10、1/17はお休みです。★都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等注意して見るようにしてください。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、Moodle等を通して学生にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	マイノリティ政策	科目コード	471223	授業コード	112101
担当教員	小林 慶太郎	科目ナンバリング	PRP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる 幅広い人間力を身につける				
授業のねらい	<p>ダイバーシティ（divercity）、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。</p> <p>年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。</p> <p>この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質</p>				
到達目標	この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：この講義の進め方</p> <p>第2講 世界がもし100人の村だったら（グループワーク）</p> <p>第3講 民族と国民国家</p> <p>第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～</p> <p>第5講 日本における少数民族政策</p> <p>第6講 もう一つの民族問題 在住外国人</p> <p>第7講 日本における在住外国人政策</p> <p>第8講 地域における在住外国人政策</p> <p>第9講 セクシュアルマイノリティと「LGBT」</p> <p>第10講 トランスジェンダーと性同一性障害</p> <p>第11講 同性愛・両性愛と異性愛</p> <p>第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策</p> <p>第13講 性感染症をめぐる差別とタブー</p> <p>第14講 ダイバーシティ経営</p> <p>第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク）</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。</p> <p>【参考文献】</p> <p>小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税</p>				
事前・事後学習	日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。				
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70% 				
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。				
アクティブラーニング	授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。				
実務経験のある教員	担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。				
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。				

授業科目名	交通政策		科目コード	471228	授業コード	115103
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	PRP2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。					
授業のねらい	<p>地域の交通政策づくりは、生活交通だけでなく、地域福祉の課題でもあり、教育、地域コミュニティなど住民が地域で生きていく上での土台となる総合的な社会的政策づくりです。</p> <p>本講義では、交通政策づくりを進めるため、①「地域交通政策を考える上での基本的な認識と考え方」、②「まちづくり、福祉、教育、交通安全など地域の課題とともに交通問題を解決していこうとする各地の取り組み事例」、③「人口減少・高齢社会における地域交通政策に必要な要件とその政策を実現する運動の進め方」などについて学びます。</p>					
到達目標	授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域交通政策づくりに参加した際、地域の抱える問題の本質を見極めるとともに、他の地域における成功事例を参考にしながら、より良い政策提言を行なうことができる力を身につけることを到達目標としています。					
授業計画	<p>第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 移動制約者が今後大量発生（地域交通が抱える課題） 第03講 地域交通をめぐる国の動き 第04講 地域交通をめぐる自治体の動き 第05講 地域交通政策づくりとその実現を自治体に移譲する必要があるについて 第06講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(1) 第07講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(2) 第08講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(3) 第09講 総合交通政策を市民参加でつくりあげた岐阜市(4) 第10講 地域協議会でつくりあげた木曽町町生活交通システム 第11講 市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(1) 第12講 市町村を超えた地域交通を確保する南信州広域連合(2) 第13講 市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(1) 第14講 市町村合併後の住民の足を200円バスで確保した京丹後市(2) 第15講 まとめ</p> <p>※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに「出欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント&参考資料のダウンロード、テストレポートの内容&提出方法等」が掲示されています。</p>					
テキスト・教材（参考文献）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストなし ・単元毎に教材プリント&参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。 					
事前・事後学習	<p>事前学習：教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。</p> <p>事後学習：教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）</p>					
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30% 					
授業内の課題・提出方法	<p>授業内の課題： <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。</p> <p>提出方法：共に授業で用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。</p>					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポートは点数&総評をMoodleのコース画面上に掲載します。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数&総評はお知らせしません。 					
アクティブラーニング	ミニテストレポート、最終テストレポート					
実務経験のある教員	民間の研究機関での勤務経験あり。行政からの政策立案関連の委託業務を請け負ってきました。都市計画、交通計画を研究対象としています。					
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。 					

授業科目名	都市計画論		科目コード	471229	授業コード	115804	
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	PRP3001			
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。						
授業のねらい	<p>都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。</p> <p>本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。</p>						
到達目標	<p>授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 都市形成のメカニズム(1) 第03講 都市形成のメカニズム(2) 第04講 現代都市の問題 第05講 都市の進化とプランニング(1) 第06講 都市の進化とプランニング(2) 第07講 計画概念とプランナー(1) 第08講 計画概念とプランナー(2) 第09講 暮らしを支える都市 第10講 豊かな都市空間を考える(1) 第11講 豊かな都市空間を考える(2) 第12講 都市環境計画(1) 第13講 都市環境計画(2) 第14講 都市環境計画(3) 第15講 まとめ</p> <p>※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに「出欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント&参考資料のダウンロード、テストレポートの内容&提出方法等」が掲示されています。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストなし ・単元毎に教材プリント&参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。 						
事前・事後学習	<p>事前学習： 教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。</p> <p>事後学習： 教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30% 						
授業内の課題・提出方法	<p>授業内の課題： ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート</p> <p>の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。</p> <p>提出方法：共に授業中に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポートは点数&総評をMoodleのコース画面上に掲載します。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数&総評はお知らせしません。 						
アクティブラーニング	ミニテストレポート、最終テストレポート						
実務経験のある教員	民間の研究機関での勤務経験あり。行政からの政策立案関連の委託業務を請け負ってきました。都市計画、交通計画を研究対象としています。						
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。 						

授業科目名	金融論	科目コード	471405	授業コード	111407
担当教員	岩崎 祐子	科目ナンバリング	PIU2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。				
到達目標	一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 金融市場1 第3講 金融市場2 第4講 金融機関1（銀行、信用金庫） 第5講 金融機関2（証券会社） 第6講 金融商品1（債券） 第7講 金融商品2（株式、投資信託） 第8講 金融政策 第9講 為替相場の見方 第10講 国際通貨制度 第11講 リスク管理 第12講 トピックス1（外部講師） 第13講 トピックス2（外部講師） 第14講 トピックス3 第15講 まとめ 定期試験 ※第12講、第13講はグループワークを実施します				
テキスト・教材（参考文献）	使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。 参考文献：「みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 2024-2025年」滝澤 ななみ（著）TAC出版、5月出版予定、前年は1650円				
事前・事後学習	日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。 授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください（90分）。				
成績評価方法	定期試験（60%）および授業時に作成するコメントシートおよび小レポート（40%）により評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業時にはコメントシートを提出します。 小レポートを2回提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。				
アクティブラーニング	グループディスカッション、議論の内容を発表				
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国内、海外の金融システムを研究対象としています。				
担当者から一言	日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようにして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。				

授業科目名	簿記入門	科目コード	471409	授業コード	115606
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PBM2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	専攻必修
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基礎でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれですが、まったく関わらない人はいないはずで、就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。				
到達目標	<p>(1) 日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける.....日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。</p> <p>(2) 「学び方」を学ぶ.....幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学んでいるかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学び力を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標です。</p>				
授業計画	<p>第1講 ガイダンス</p> <p>第2講 簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02）</p> <p>第3講 日常の手続き（同03）</p> <p>第4講 商品売買1（同04）</p> <p>第5講 商品売買2（同05）</p> <p>第6講 現金・預金（同06）、小口現金（同07）</p> <p>第7講 クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09）</p> <p>第8講 中間試験、電子記録債権・債務（同10）</p> <p>第9講 その他の取引1（同11）</p> <p>第10講 その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部）</p> <p>第11講 その他の取引3（同13）</p> <p>第12講 さまざまな帳簿の関係（同14）</p> <p>第13講 試算表（同15）</p> <p>第14講 証ひょう（同31）、伝票（同32）</p> <p>第15講 まとめ 定期試験</p>				
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）</p> <p>参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込）</p> <p>資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込） 日建学院「日商簿記3級 過去問+予想問題解説集 2023-202</p>				
事前・事後学習	<p>簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。</p> <p>継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。</p> <p>事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。</p> <p>事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。</p>				
成績評価方法	<p>(1) 中間試験（第8講で実施予定）：30%</p> <p>(2) 課題：30%</p> <p>(3) 定期試験：40%</p> <p>「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。</p>				
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。				
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。				
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。				

授業科目名	会計学総論		科目コード	471410	授業コード	112704
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PBM2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する					
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。					
到達目標	(1) 会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。 (2) 就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計の目的 第3講 会計基準と会計制度 第4講 企業経営と会計 第5講 貸借対照表1 第6講 貸借対照表2 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 会計原則 第10講 キャッシュ・フロー計算書 第11講 経営分析 第12講 家計（個人）にとっての会計 第13講 ファイナンスと会計 第14講 会計と監査 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学 第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）					
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりでしょうが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。					
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) 小レポート：20% (3) 定期試験：50%					
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。					
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。					
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。					
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。					

授業科目名	財務諸表論		科目コード	471411	授業コード	115706	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PBM2004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	<p>(1) 財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける.....「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。</p> <p>(2) さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する.....たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになります。</p> <p>(3) 公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する.....財務情報は容易に手に入ります。それを価値あ</p>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 財務諸表を作るねらい 第3講 財務諸表の構成 第4講 貸借対照表1 第5講 貸借対照表2 第6講 貸借対照表3 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 損益計算書3 第10講 キャッシュ・フロー計算書1 第11講 キャッシュ・フロー計算書2 第12講 株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動 第13講 株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発 第14講 会計と経営 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 日本経済新聞社「財務諸表の見方 第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込） 金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。						
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) レポート：30% (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	ものづくり経営	科目コード	471416	授業コード	115402
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PBM2006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する				
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価※した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。				
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原則」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることになります。履修後には3級試験の受験を強くおすすめします。 (2) 簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面でもとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方とは異なる、独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融について				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 決算（テキストのテーマ16） 第3講 決算整理1 現金過不足（同17） 第4講 決算整理2 売上原価（同18） 第5講 決算整理3 貸倒れ（同19） 第6講 決算整理4 減価償却（同20） 第7講 決算整理5 貯蔵品（同21）、決算整理6 当座借越（同22） 第8講 決算整理7 経過勘定項目（同23） 第9講 中間試験 第10講 決算整理後残高試算表（同24） 第11講 精算表（同25） 第12講 帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講 株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講 剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（「簿記入門」と同じテキストです） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込）日建学院「日商簿記3級 過去問				
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるくらいまでテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。				
成績評価方法	(1) 中間試験（第9講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。				
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。				
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。				
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携ってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。				

実務経験のある教員による授業科目(総合政策学科2023年度以降入学生)

区分	2023年度以降入学生 授業科目名	単位数	配当年次								講師区分	担当教員	ページ	備考
			1年次		2年次		3年次		4年次					
			前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通科目	「人間たれ」I	②	○								兼	鬼頭 浩文 他	1	
	「人間たれ」II	②		○								小林 慶太郎 他	2	
	四日市学	②			○							岡 良浩 他	3	
	社会福祉概論	2		○								松本 彩月	25	
	地学概論	2	○								非	森 康則	34	オンデマンド
	キャリア基礎b	②				○						三田 泰雅 他	40	
	ビジネスマナー	2				○					非	長野 ゆき子	41	
	インターンシップa	2				▲						岡 良浩	42	
	ITリテラシー	2	○								兼	鬼頭 浩文	47	
	Webプログラミング2	2			○						兼	柳澤 翔士	49	
	社会調査入門	2	○									三田 泰雅	59	
	社会調査の技法	2		○								三田 泰雅	60	
	国際協力研修	2		▲								岩崎 祐子	76	
学部専門科目	警察行政と安全	2				○						小林 慶太郎	120	
	防災とまちづくり	2	○								兼	鬼頭 浩文	121	オンデマンド
	地域福祉論	2			○							松本 彩月	122	
	社会保障論	2				○						松本 彩月	123	
	ダイバーシティ社会論	2	○									小林 慶太郎	124	
	市民とまちづくり	2		○								小林 慶太郎	126	
	都市計画論	2				○					兼	鬼頭 浩文	127	オンデマンド
	簿記入門	2		○								本部 賢一	148	
	会計学総論	2		○								二村 建也	158	
	金融論	2			○							岩崎 祐子	159	
	財務諸表論	2				○						二村 建也	160	
	商業簿記	2				○						二村 建也	161	

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ		科目コード	181001	授業コード	125101	
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEFC1001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力</p> <p>向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢</p> <p>自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力</p> <p>地域の持続的発展のために貢献できる力</p>						
授業のねらい	<p>本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>						
到達目標	<p>本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」</p> <p>第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～</p> <p>第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～</p> <p>第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～</p> <p>第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤）</p> <p>第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村）</p> <p>第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部）</p> <p>第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館</p> <p>第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立）</p> <p>第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木）</p> <p>第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田）</p> <p>第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口）</p> <p>第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬）</p> <p>第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。						
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノートを写真撮影しMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す						
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成						
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ			科目コード	181002	授業コード	125501
担当教員	小林 慶太郎			科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	<p>多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力</p> <p>向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢</p> <p>自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力</p> <p>地域の持続的発展のために貢献できる力</p>						
授業のねらい	<p>前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。</p>						
到達目標	<p>本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。</p>						
授業計画	<p>第1講（9/27） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林）</p> <p>第2講（10/4） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎）</p> <p>第3講（10/11） ダイバーシティと「人間たれ」（小林）</p> <p>第4講（10/18） 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所）</p> <p>第5講（10/25） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林）</p> <p>第6講（11/1） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員））</p> <p>第7講（11/8） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田）</p> <p>第8講（11/15） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井）</p> <p>第9講（11/22） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田）</p> <p>第10講（11/29） 世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林）</p> <p>第11講（12/6） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラム・カンチャさん）</p> <p>第12講（12/13） 外国で働くということ（オイスカ）</p> <p>第13講（12/20） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井）</p> <p>第14講（1/10） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェーリ）</p> <p>第15講（1/17） 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について（小林）</p> <p>※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>できるだけレジュメや資料を配布する。</p>						
事前・事後学習	<p>大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。</p>						
成績評価方法	<p>毎回提出の小レポート（60%）と、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。</p>						
アクティブラーニング	<p>毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。</p>						
実務経験のある教員	<p>学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。</p>						
担当者から一言	<p>私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。</p>						

授業科目名	四日市学	科目コード	181003	授業コード	125103
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEFC1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力				
授業のねらい	<p>この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。</p> <p>これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただ</p>				
到達目標	<p>講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること 				
授業計画	<p>第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡・鬼頭)</p> <p>第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館)</p> <p>第3講(4/19) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部)</p> <p>第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義])</p> <p>第5講(5/10) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員)</p> <p>第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室)</p> <p>第7講(5/24) 「四日市の食」(小林[司会・講義]; とんてき協会関連)</p> <p>第8講(5/31) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部)</p> <p>第9講(6/07) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課)</p> <p>第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部)</p> <p>* 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。</p> <p>(フィールドワーク)</p> <p>第11~12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。</p> <p>第13~15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。</p>				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1~10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(50%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(20%)で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	181204	授業コード	121604
担当教員	松本 彩月			科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	地学概論	科目コード	181402	授業コード	121101
担当教員	森 康則	科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。				
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。				
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。				
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点				
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。				
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。				
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。				
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。				

授業科目名	キャリア基礎b		科目コード	181502	授業コード	121701	
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECC1002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。						
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる						
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて						
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。						
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）						
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。						
アクティブラーニング	小レポート グループワーク						
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。						
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。						

授業科目名	ビジネスマナー		科目コード	181601	授業コード	125601	
担当教員	長野 ゆき子		科目ナンバリング	GECC1004			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	<p>本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作ってあげばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。</p> <p>表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。</p> <p>職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。</p>						
到達目標	<p>社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。</p> <p>①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。</p>						
授業計画	<p>① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流 ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学 ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方 ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方 ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語① ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語② ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現① ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現② ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相 ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮ 1/17 総まとめ 定期試験</p>						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	<p>予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。</p> <p>復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。</p>						
成績評価方法	<p>定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。</p>						
アクティブラーニング	<p>毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニツッパパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。</p>						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	インターンシップ a	科目コード	181603	授業コード	126101
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩	科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること				
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。				
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明/申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 *春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。				
テキスト・教材（参考文献）	とくになし				
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。				
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。				
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。				
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。				
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。				

授業科目名	ITリテラシー		科目コード	181801	授業コード	123403	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEC11001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ¥2300+税						
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。						

授業科目名	Webプログラミング 2		科目コード	181803	授業コード	124301	
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEC11004			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。						
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。						
授業計画	<p>全て実習を含みます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基礎知識 2. Webサイトの概要 3. HTML① 4. HTML② 5. HTML③ 6. CSS① 7. CSS② 8. CSS③ 9. サイトの設計と制作① 10. サイトの設計と制作② 11. サイトの設計と制作③ 12. サイトの設計と制作④ 13. 模擬試験① 14. 模擬試験② 15. 模擬試験③・まとめ <p>定期試験</p> <p>※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」 富士通ラーニングメディア(FOM出版)</p> <p>※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※</p> <p>[参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂 2 版] 」 技術評論社</p>						
事前・事後学習	<p>講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分)</p> <p>講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)</p>						
成績評価方法	<p>レポート・授業課題等の受講態度(50%)</p> <p>定期試験(50%)</p>						
授業内の課題・提出方法	<p>学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。(その都度指定)</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>当日中、あるいは翌週に行う。</p>						
アクティブラーニング	<p>PC実習</p>						
実務経験のある教員	<p>Webサイト制作業務経験あり</p>						
担当者から一言	<p>Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。</p>						

授業科目名	社会調査入門			科目コード	182001	授業コード	123203
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。						
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプルングの発展 8 公的統計の意義と活用（中間まとめ） 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。						

授業科目名	社会調査の技法			科目コード	182002	授業コード	123603
担当教員	三田 泰雅			科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。						
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。						
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理						
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。						
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）						
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する						
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします						
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法						
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。						
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。						

授業科目名	国際協力研修		科目コード	182208	授業コード	126501	
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESC1008			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力						
授業のねらい	<p>青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。</p> <p>海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。</p>						
到達目標	<p>1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。</p> <p>2 国際感覚を身に付けます。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り</p> <p>※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。</p> <p>（大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。</p>						
事前・事後学習	<p>事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分）</p> <p>事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）</p>						
成績評価方法	<p>四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%）</p> <p>大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%）</p> <p>※評価（単位）は、次年度前学期につきます。</p>						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。						
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。						
担当者から一言	<p>2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。</p> <p>※研修には研修参加費が必要です。</p> <p>※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。</p>						

授業科目名	警察行政と安全		科目コード	481403	授業コード	122803	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPL5002			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	<p>将来 警察官になりたいという話は、しばしば耳にします。では、警察官は、どのような仕事をしているのでしょうか。警察官として、日々どのようなことを考えているのでしょうか。</p> <p>この授業では、現職の警察官の方にもゲストスピーカーとして登壇いただくことで、警察の実際について学生諸君に知ってもらうことを、そのねらいとしています。</p> <p>防犯・交通安全活動などの場面における警察と市民との協働や、刑法・刑事訴訟法などの背景となる知識についても、学んでもらいます。</p>						
到達目標	警察の業務が市民の安全に対して果たしている役割などについての基礎的な知識を身につける。						
授業計画	<p>第1講（9/24）ガイダンス（この授業の進め方）</p> <p>第2講（10/1）忘れ物や落とし物（拾得・遺失物）</p> <p>第3講（10/8）交通安全の意識啓発と施設整備</p> <p>第4講（10/15）夢を叶えた警察受験（受験の準備と現在の仕事）（卒業生 柳川さん）</p> <p>第5講（10/22）交通事故の捜査</p> <p>第6講（10/29）刑法と刑事訴訟法</p> <p>第7講（11/5）犯罪に向き合う現場から（南警察署南川さん）</p> <p>第8講（11/12）ストーカー・DV及び児童虐待について</p> <p>第9講（11/19）少年非行・少年犯罪と補導・更生</p> <p>第10講（11/26）刑事としてOBとして（学生時代と現在の仕事）（卒業生 行廣さん）</p> <p>第11講（12/3）身近な警察 交番・駐在所</p> <p>第12講（12/10）犯罪防止に向けた対策の推進</p> <p>第13講（12/17）警察と協力した防犯活動（四日市北防犯協会 松岡さん）</p> <p>第14講（1/7）警察事務と被害者支援</p> <p>第15講（1/14）授業の振り返りと課題の指示</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、内容や順番が変更になる可能性があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	レジュメや資料などを配る予定です。						
事前・事後学習	<p>日頃から、テレビや新聞の事件・事故に関するニュースに目を通し、警察の役割について考えることを心掛けてください（毎日20分以上）。</p> <p>また、必ず復習をして、不明な点などはインターネット等で調べておいてください（40分）。</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：45% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：55% 						
授業内の課題・提出方法	授業の冒頭に課題提出用のミニッツペーパーを配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニッツペーパーに書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、原則として毎回、ミニッツペーパーを提出してもらいます。						
実務経験のある教員	本学の卒業生などのゲストスピーカーの方々は、いずれも警察などで実務に携わっている方々です。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	防災とまちづくり			科目コード	481406	授業コード	125305
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	PPL6002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	<p>対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド</p> <p>1 4/5 ガイダンス(対面)/補講1；近年の災害 2 4/12 第1講；地震・津波/第2講；気象災害・風水害/第9講；行政の災害対策 3 4/19 第7講；ハザードマップ/補講2；耐震補強/第20講；災ボラ/第17講；自主防 4 4/26 第11講；復旧・復興/第12講；災害医療/第18講；避難所 5 5/11 午前；防災士養成講座(会場研修)① 6 5/11 午後；普通救命講習(場所：体育館) 7 5/12 午前；防災士養成講座(会場研修)② 8 5/12 午後；防災士養成講座(会場研修)③ 9 5/18 午前；防災士養成講座(会場研修)④ 10 5/18 午後；防災士養成講座(会場研修)⑤ 11 5/24 第3講；土砂災/第4講；火山/第5講；火災 12 5/31 第6講；予報・警報/第8講；災害情報/第10講；行政 13 6/7 第13講；ライフライン/第14講；事業継続/第15講；地震への備え 14 6/14 第16講；風水害への備え/補講3；損保 15 6/21 第19講；多様性/第21講；防災士/補講4；訓練 学期末試験：6/28 ★8月3日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。</p>						
テキスト・教材(参考文献)	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブラーニングを行う。						
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域福祉論		科目コード	481501	授業コード	125306	
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PPC4001			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている						
授業のねらい	この授業では地域福祉の基本的な考え方を学びます。私たちは地域で暮らす住民です。地域で支え、支えられることの大切さを学び、地域の一員として何ができるのかを考える授業です。						
到達目標	地域福祉の基本的考え方、地域福祉における主体と対象、地域福祉を推進するための福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要（地域福祉とは） 第2講 コミュニティとネットワーク 第3講 地域福祉の財源 第4講 地域福祉の主体や担い手 第5講 地域福祉をプロ野球から考える ゲストスピーカー 第6講 災害と地域福祉 小レポート-1 第7講 ボランティア 第8講 少子高齢化 第9講 子育て支援と地域福祉 第10回 社会的養護と子どもの貧困 第11回 当事者組織・セルフヘルプグループ 小レポート-2 第12回 協同組合 第13回 社会的孤立と社会的排除 第14回 生活保護 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験 ※ゲストスピーカーの都合により前後する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 加山弾・熊田博樹・中島修・山本美香『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣（2020） 動画などを視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、地域の取り組み記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）						
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。（松本） プロ野球球団関係者をゲストスピーカーとして招へい予定です。						
担当者から一言	自分ごととして地域福祉について身近に考えましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	社会保障論		科目コード	481502	授業コード	121806
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	PPC5002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。					
授業のねらい	この講義では、現代日本の社会保障における根本的な課題について学び、考えていきます。社会保障制度とは、少子高齢化を大前提とする今後の日本社会にとって、最も優先して取り組まれて行かなければならない事柄の一つになっています。現行の日本の社会保障制度の基本的な仕組みや特徴と、そこでの課題を理解することが講義のねらいとなります。					
到達目標	社会保障の役割と意義および課題、社会保障の基礎理論、歴史、財源を含む実施体制について、現代社会の動向も踏まえながら理解することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要（社会保障とは） 第2講 社会保障の歴史と現代社会の変化 第3講 社会保障の法と財政 第4講 公的年金って？ 第5講 医療保険って？ 第6講 介護保険って？ 小レポート-1 第7講 働くことと社会保障 第8講 生活保護 第9講 社会福祉 第10講 災害と社会保障 第11講 住まいは人権 小レポート-2 第12講 貧困と社会保障 第13講 多国籍社会の社会保障 第14講 ジェンダーと社会保障 第15講 ひとり親と社会保障 小レポート-3 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 <参考文献> 春田吉備彦ほか『生きのびるための社会保障入門』堀之内出版（2023年） 棕野美智子ほか『はじめての社会保障』有斐閣（2023年） 動画を視聴することもあります。					
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会保障関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）					
成績評価方法	<評価> 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。					
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション					
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。					
担当者から一言	社会保障制度を知ることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。					

授業科目名	ダイバーシティ社会論		科目コード	481503	授業コード	122101	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPC5001			
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。</p> <p>多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。</p>						
授業のねらい	<p>ダイバーシティ (divercity) 、日本語では、多様性と訳されます。この授業では、多様な人々が共生する社会「ダイバーシティ社会」について考えていきます。</p> <p>年齢、国籍・文化的背景、性的指向・性自認などの性のあり方、障がいの有無など身体や心の状態・・・私たちの社会に暮らしている人は千差万別で、一人ひとりに違いがあります。また、人生の中で置かれた状況や立場も、時により変わっていきます。</p> <p>この授業では、学生の皆さんがこうした社会の多様性に気づき、その多様性が尊重されるダイバーシティ社会の担い手としての資質</p>						
到達目標	<p>この授業では、学生諸君が、日本の社会の多様性に関する基本的な知識を身につけ、ダイバーシティ社会の担い手に相応しい言動が出来るような人になっていくことを、到達目標としています。</p>						
授業計画	<p>第1講 ガイダンス：この講義の進め方</p> <p>第2講 世界がもし100人の村だったら（グループワーク）</p> <p>第3講 民族と国民国家</p> <p>第4講 棲み分けか統合か ～諸外国のケースから～</p> <p>第5講 日本における少数民族政策</p> <p>第6講 もう一つの民族問題 在住外国人</p> <p>第7講 日本における在住外国人政策</p> <p>第8講 地域における在住外国人政策</p> <p>第9講 セクシュアルマイノリティと「LGBT」</p> <p>第10講 トランスジェンダーと性同一性障害</p> <p>第11講 同性愛・両性愛と異性愛</p> <p>第12講 地域におけるセクシュアルマイノリティ政策</p> <p>第13講 性感染症をめぐる差別とタブー</p> <p>第14講 ダイバーシティ経営</p> <p>第15講 ダイバーシティ社会の推進に向けて（グループワーク）</p> <p>定期試験</p> <p>※ ゲストスピーカーの都合などにより、順序が変更になる場合があります。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	<p>テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）。</p> <p>【参考文献】</p> <p>小林慶太郎「LGBTと自治体行政」時事通信社（2016年）、650円＋税</p>						
事前・事後学習	<p>日頃からテレビや新聞の社会ニュースに目を通すこと（毎日20分以上）。講義内容のノートを見返して、不明な点などは参考文献等で調べておくこと（40分）。</p>						
成績評価方法	<p>成績は次のような配分により評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時に指示する簡単な課題の提出状況および受講態度：30% ・定期試験（自筆ノートのみ持込可）：70% 						
授業内の課題・提出方法	<p>授業の冒頭に課題提出用の紙を配布し、講義の中で課題を指示し、授業の終わりに課題を提出してもらいます。</p>						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<p>提出された課題に書かれていたコメントに対しては、以降の講義で応答していきます。</p>						
アクティブラーニング	<p>授業時に、複数回グループワークを行うほか、課題として毎回ミニッツペーパーを記入してもらいます。</p>						
実務経験のある教員	<p>担当教員は、ダイバーシティ社会の実現に向けた三重県の委員会の委員等を数年にわたって務めています。また、ダイバーシティ社会実現に向けた活動をされている方を、ゲストスピーカーとしてお招きする予定です。</p>						
担当者から一言	<p>遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。</p>						

授業科目名	市民とまちづくり		科目コード	481505	授業コード	125703	
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	PPC6001			
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	<p>人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。</p> <p>多様なバックグラウンドをもつ他者とコミュニケーションをとり、協力して事業を遂行する力を身につけている。</p>						
授業のねらい	<p>この授業では、市民が主体となって地域の活性化や魅力発信などの「まちづくり」に取り組むことの大切さを、いくつかの事例を中心に考えていきます。まちづくりに携わっている方々に教室に来ていただいて話を聞き、実際にスタッフとしてイベントに参加することを通じて、まちづくりを学びます。</p> <p>今年度は、市民ボランティアが中心になって開催されている「四日市JAZZフェスティバル」、三重からJリーグを目指して市民で盛り上げるスポーツクラブ「ヴィアティン三重」、四日市大学生の発案でスタートし定着した三岐鉄道北勢線の「サンタ電車」を取り上げます。学生諸君が、市民主体のまちづくり活動の実際を、五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。</p>						
到達目標	市民主体のまちづくりの活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	<p>第1講（9/27）ガイダンス（鬼頭・小林）</p> <p>第2講（10/4）四日市JAZZフェスティバルと地域活性化（実行委員長）</p> <p>第3講（10/11）イベントとまちづくり（鬼頭・小林）</p> <p>第4講（10/18）JAZZフェスに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会、鬼頭・小林）</p> <p>第5～6講（10/19）フィールドワーク（JAZZフェスの見学・スタッフ参加を2コマとしてカウント）</p> <p>第7～8講（10/20）フィールドワーク（JAZZフェスへのスタッフとしての参加を2コマとしてカウント）</p> <p>第9講（10/25）スポーツクラブ経営（ヴィアティン三重社長）</p> <p>第10講（11/1）スポーツクラブとまちづくり（ヴィアティン三重スタッフ）</p> <p>★11/8、11/15、11/22、11/29の4回はお休みです。</p> <p>第11講（12/6）北勢線サンタ電車とローカル鉄道（三岐鉄道職員）</p> <p>第12講（12/13）コミュニティバスと鉄道の連携（東員町担当者）</p> <p>第13講（12/20）サンタ電車運行準備と打ち合わせ</p> <p>第14～15講 フィールドワーク（a, bいずれかを選択）を2コマとしてカウント</p> <p>a：ヴィアティン三重ホームゲームの集客企画や観客満足度アップ事業の手伝い（11/3、11/10、11/17、11/24に開催される試合のうち、ホームの試合を1日手伝う）b：12/21北勢線サンタ電車でサンタクローズになって子どもにプレゼント配布★1/10、1/17はお休みです。★都合により授業計画が変更になる可能性があります。掲示等注意して見るようにしてください。</p>						
テキスト・教材（参考文献）	JAZZフェスのパンフレット、サンタ電車の資料などの配布を予定しています						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちに資料やネットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	フィールドワークに取り組む姿勢・パフォーマンス40%、授業内で課す課題30%、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	講義の際には小レポートを、フィールドワークの際はその振り返りレポートを、それぞれ課題として提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に対しては、Moodle等を通して学生にコメントを返していきます。						
アクティブラーニング	この授業では、フィールドワークが重要な要素となっている。						
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、実際にまちづくりに関わっている方であり、フィールドワークの際にも指導いただく。なお、授業の担当者である鬼頭、小林も、それぞれ市民団体の代表として、まちづくりの実務に携わっている。						
担当者から一言	最も重要なフィールドワークに参加できない学生には、原則として単位は与えられませんので、履修登録の際には注意してください。						

授業科目名	都市計画論		科目コード	481601	授業コード	125803	
担当教員	本部 賢一		科目ナンバリング	PPE4001			
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす人々に対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。						
到達目標	授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。						
授業計画	第01講 ガイダンス、授業の概要 第02講 都市形成のメカニズム(1) 第03講 都市形成のメカニズム(2) 第04講 現代都市の問題 第05講 都市の進化とプランニング(1) 第06講 都市の進化とプランニング(2) 第07講 計画概念とプランナー(1) 第08講 計画概念とプランナー(2) 第09講 暮らしを支える都市 第10講 豊かな都市空間を考える(1) 第11講 豊かな都市空間を考える(2) 第12講 都市環境計画(1) 第13講 都市環境計画(2) 第14講 都市環境計画(3) 第15講 まとめ ※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに「出欠ボタン」（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント&参考資料のダウンロード、テストレポートの内容&提出方法等が掲示されています。						
テキスト・教材（参考文献）	・テキストなし ・単元毎に教材プリント&参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。						
事前・事後学習	事前学習： 教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう。（90分程度） 事後学習： 教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）						
成績評価方法	成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。 <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30% 						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題： <ul style="list-style-type: none"> ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート の2つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。 提出方法： 共に授業に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・単元毎のミニテストレポートは点数&総評をMoodleのコース画面上に掲載します。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数&総評はお知らせしません。						
アクティブラーニング	ミニテストレポート、最終テストレポート						
実務経験のある教員	民間の研究機関での勤務経験あり。行政からの政策立案関連の委託業務を請け負ってきました。都市計画、交通計画を研究対象としています。						
担当者から一言	・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。						

授業科目名	簿記入門	科目コード	482103	授業コード	125604
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PMR2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	専攻必修
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	簿記は株式会社などの企業、小規模な店舗、官公庁といった各種組織・機関で行われている幅広い事業活動をお金の面で記録する技術であり、また財務諸表（決算書）を作る基盤でもあります。この「簿記入門」の授業では、簿記や財務諸表の基礎、勘定科目、仕訳などを学びます。皆さんが就職後、簿記の対象となる取引にどう関わるかは人それぞれですが、まったく関わらない人はいないはずです。就職後に自分が働くことをイメージしながら、簿記という技術体系の基礎を理解することがこの授業のねらいです。				
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」と「諸取引の処理」に関する問題を解ける.....日商簿記検定3級は他の資格と比べて学びやすく、学習した時間数が獲得できる知識量、そして合格につながりやすい資格だと言えます。日商簿記検定3級試験のほぼ半分の問題を解けるだけの知識修得を目指しましょう。 (2) 「学び方」を学ぶ.....幅広く応用が効く、「学び方」を学びましょう。「学び方」を学んでいるかどうかは採用担当者が近年、特に重視するポイントです。就職後の学び方を養うために「学び方」を学ぶことも、この「簿記入門」の到達目標で				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 簿記の意義（テキストのテーマ01）、財務諸表と簿記の5要素（同02） 第3講 日常の手続き（同03） 第4講 商品売買1（同04） 第5講 商品売買2（同05） 第6講 現金・預金（同06）、小口現金（同07） 第7講 クレジット売掛金（同08）、手形取引（同09） 第8講 中間試験、電子記録債権・債務（同10） 第9講 その他の取引1（同11） 第10講 その他の取引2（同12）、減価償却（同20の一部） 第11講 その他の取引3（同13） 第12講 さまざまな帳簿の関係（同14） 第13講 試算表（同15） 第14講 証ひょう（同31）、伝票（同32） 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込） 日建学院「日商簿記3級 過去問+予想問題解説集 2023-202				
事前・事後学習	簿記は知識を一つひとつ積み上げていくことで理解できる科目です。欠席すると次週以降の理解がかなり難しくなります。欠席しないことを第一に、欠席したらその日の内容をテキストで必ず自習してください。 継続的な繰り返し学習が効果的です。「近道は遠道」「走れば転ぶ」「急がば回れ」と心得て、コツコツ学びましょう。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと（90分）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。				
成績評価方法	(1) 中間試験（第8講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「簿記入門」は日商簿記初級に合格できるレベル、もしくは日商簿記検定3級の「簿記の基本原則」「諸取引の処理」に関する問題で合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、それらの検定試験に準じます。				
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。優れた課題については授業で紹介することがあります。				
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。				
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。				

授業科目名	会計学総論		科目コード	482401	授業コード	122708
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA4001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。					
授業のねらい	この「会計学概論」では、会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を学びます。会計学が対象とする領域は幅広く、財務諸表論、管理会計論、経営分析論などへと細分化されます。それらのどの領域、さらに経営学、経済学、金融論などの一部にも通底する《過去を未来に知恵として伝えようとする意志》を感じ取りながら、会計学の全体像を理解していくことをこの授業のねらいとします。					
到達目標	(1) 会計学が対象とする領域を概観しながら、会計学の基礎的な知識や考え方を身につける……2年次・3年次に配当されている「財務諸表論」「管理会計論」「経営分析論」で学びを深められるよう、この授業で全体像をつかんでおきましょう。 (2) 就職後の仕事ではもちろん、1人ひとりの生活者として生きていくさいにも会計的な視点で考えられるようになる……会計的な視点で考えることは仕事だけでなく個人の生活にも大きな恩恵をもたらしてくれます。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 会計の目的 第3講 会計基準と会計制度 第4講 企業経営と会計 第5講 貸借対照表1 第6講 貸借対照表2 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 会計原則 第10講 キャッシュ・フロー計算書 第11講 経営分析 第12講 家計（個人）にとっての会計 第13講 ファイナンスと会計 第14講 会計と監査 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 桜井久勝「会計学入門〈第5版〉」日本経済新聞出版（2018年）、定価：946円（税込） 川本淳ほか「はじめて出会う会計学 第3版」有斐閣（2022年）、定価：2310円（税込）					
事前・事後学習	事前学習として新聞（特に日本経済新聞）や雑誌などで、企業に関する記事を読むようにしてください。最初はわからない用語ばかりでしょうが、そうした用語をメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また授業で学んだことを使って、実存する企業の財務諸表などを使って小レポートを作成してください（90分）。					
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) 小レポート：20% (3) 定期試験：50%					
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第9講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。小レポートはMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと小レポートについては全体の講評を授業で行います。					
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、財務面のレポートを作ってもらいます。					
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。					
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。					

授業科目名	金融論	科目コード	482402	授業コード	121406
担当教員	岩崎 祐子	科目ナンバリング	PMA4002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	この講義では、日本の金融市場、金融機関、金融商品などについて学んでいきます。これから社会に出て、自分の資産をいかに増やそうと思ったときに、金融に関する知識が必要となります。この講義は、今後、現実の金融取引を行う際に、自らの責任で、自らの判断で、取引を行うための基礎力をつけることを目的とします。				
到達目標	一般紙の金融・経済欄の記事内容を理解できるようになることを、到達目標としています。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 金融市場1 第3講 金融市場2 第4講 金融機関1（銀行、信用金庫） 第5講 金融機関2（証券会社） 第6講 金融商品1（債券） 第7講 金融商品2（株式、投資信託） 第8講 金融政策 第9講 為替相場の見方 第10講 国際通貨制度 第11講 リスク管理 第12講 トピックス1（外部講師） 第13講 トピックス2（外部講師） 第14講 トピックス3 第15講 まとめ 定期試験 ※第12講、第13講はグループワークを実施します				
テキスト・教材（参考文献）	使用しません。教材として、プリントや新聞記事を使用します。 参考文献：「みんなが欲しかった！FPの教科書 3級 2024-2025年」滝澤 ななみ（著）TAC出版、5月出版予定、前年は1650円				
事前・事後学習	日頃から、金融に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。 授業内容のノートを復習して、専門用語の理解に努めてください（90分）。				
成績評価方法	定期試験（60%）および授業時に作成するコメントシートおよび小レポート（40%）により評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業時にはコメントシートを提出します。 小レポートを2回提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。				
アクティブラーニング	グループディスカッション、議論の内容を発表				
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国内、海外の金融システムを研究対象としています。				
担当者から一言	日頃から金融・経済に関するニュースに関心をもつようして下さい。金融機関への就職を考えている学生は、履修を検討してください。				

授業科目名	財務諸表論		科目コード	482403	授業コード	125705	
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	PMA5001			
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。						
授業のねらい	ビジネス界の共通言語とも言われる会計、その中心となる財務諸表（決算書）について学ぶのが、この「財務諸表論」です。「財務諸表論」のねらいは財務諸表を《読む》ためや《使う》ために、財務諸表が作られるさいのルール、各財務諸表の構成や関係を学ぶことです。授業を通して各財務諸表が何を示しているのかを理解しましょう。同時に、何を示して（示せて）いないのかを考えると、財務諸表のおもしろさを見つけられるかもしれません。						
到達目標	<p>(1) 財務諸表を読むための基礎的な知識を身につける……「難しそう」という印象を持たれやすい財務諸表ですが、ポイントを押さえれば読むのは難しくありません。</p> <p>(2) さまざまな立場のさまざまな目的で財務諸表を使うための実践的なスキルを修得する……たとえば経営者が株主を増やすため、1人の従業員が未知の企業と取引を検討するため、また個人が株式投資をするためなど、財務諸表を使えるようになりましょう。</p> <p>(3) 公開情報から有用なものを取捨選択し、効果的に報告する能力を獲得する……財務情報は容易に手に入ります。それを価値あ</p>						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 財務諸表を作るねらい 第3講 財務諸表の構成 第4講 貸借対照表1 第5講 貸借対照表2 第6講 貸借対照表3 第7講 損益計算書1 第8講 損益計算書2 第9講 損益計算書3 第10講 キャッシュ・フロー計算書1 第11講 キャッシュ・フロー計算書2 第12講 株式会社の設立・資金調達～仕入・生産活動 第13講 株式会社の営業・販売活動～設備投資・研究開発 第14講 会計と経営 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献： 日本経済新聞社「財務諸表の見方 第14版」日本経済新聞出版（2023年）、定価：1100円（税込） 金子智朗「教養としての「会計」入門」日本実業出版社（2023年）、定価：1980円（税込）						
事前・事後学習	事前学習として日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（90分）。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。また上場企業のサイトで財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください（90分）。						
成績評価方法	(1) 平常点（受講態度、3回分の小テストなど）：30% (2) レポート：30% (3) 定期試験：40%						
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第7講・第10講・第12講予定）実施し、授業中に回収します。レポートはMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストとレポートについては全体の講評を授業で行います。また優れたレポートは授業で紹介することがあります。						
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務面などで比較するレポートを作ってもらいます。						
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。						
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。						

授業科目名	商業簿記	科目コード	482406	授業コード	125402
担当教員	二村 建也	科目ナンバリング	PMA6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識を身につけている。				
授業のねらい	この授業では「簿記入門」に続き、日商簿記検定3級の内容、具体的には「決算」と「株式会社会計」を学びます。3級試験に合格できる簿記知識の修得がねらいです。また企業の事業活動や社会・組織のなかで行われている、さまざまな取引やお金に関する管理手法を学ぶこともねらいです。600年以上も使われ続け、ゲーテも高く評価※した簿記（現在の複式簿記）の洗練と優美さを感じ取ってください。 ※ゲーテ（ドイツの詩人、劇作家。1749-1832）の『ウィウヘルム・マイスターの修業時代』という小説には複式簿記を「人類の最も見事な発明の一つだ」と評価する一節があります。				
到達目標	(1) 日商簿記検定3級の「決算」と「株式会社会計」に関する問題を解ける……「簿記の基本原則」と「諸取引（期中取引）の処理」を学んだ「簿記入門」とあわせて、この「商業簿記」を履修すれば、3級試験の出題範囲をすべて学べることとなります。履修後には3級試験の受験を強くおすすめします。 (2) 簿記・会計の考え方を理解する……簿記・会計には、企業などの事業活動をお金の面でもとらえるにあたって私たちに馴染みのある一般的な考え方とは異なる、独特の考え方があります。そうした考え方を理解することは、企業経営、経済や金融について				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 決算（テキストのテーマ16） 第3講 決算整理1 現金過不足（同17） 第4講 決算整理2 売上原価（同18） 第5講 決算整理3 貸倒れ（同19） 第6講 決算整理4 減価償却（同20） 第7講 決算整理5 貯蔵品（同21）、決算整理6 当座借越（同22） 第8講 決算整理7 経過勘定項目（同23） 第9講 中間試験 第10講 決算整理後残高試算表（同24） 第11講 精算表（同25） 第12講 帳簿の締め切り（英米式決算）（同26）、損益計算書と貸借対照表（同27） 第13講 株式の発行（同28）、剰余金の配当と処分（前半）（同29） 第14講 剰余金の配当と処分（後半）（同29）、税金（同30） 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格テキスト 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：2200円（税込）（「簿記入門」と同じテキストです） 参考文献（問題集）：TAC簿記検定講座「よくわかる簿記シリーズ 合格トレーニング 日商簿記3級 ver.14.0」TAC出版（2023年）、定価：1650円（税込） 資格の大原 簿記講座「ステップアップ問題集 日商簿記3級（改訂4版）」大原出版（2022年）、定価：1320円（税込） 日建学院「日商簿記3級 過去問				
事前・事後学習	「商業簿記」の履修には「簿記入門」を先行して履修していること、もしくは日商簿記初級の学習経験を持つことが望ましいです。 事前学習では指定テキストの各回の範囲を読んだうえで、要点をつかみ、疑問点を明確にしておくこと。授業では要点の確認、疑問点の解消だけに集中できるくらいまでテキストを読み込んでおくことが望ましいです（90分以上）。 事後学習ではテキストの確認問題や問題集などで多くの問題を解き、知識の定着を図ること（90分）。 細切れの時間をうまく使って、簿記を毎日学習する習慣をつけましょう。				
成績評価方法	(1) 中間試験（第9講で実施予定）：30% (2) 課題：30% (3) 定期試験：40% 「商業簿記」は、「簿記入門」の学習内容とあわせて日商簿記検定3級に合格できるレベルを目指す授業です。定期試験の出題内容は概ね、日商簿記検定3級に準じます。				
授業内の課題・提出方法	中間・定期試験や簿記検定試験の予想問題を独自に作成・解説したものをMoodleで提出してもらいます（計3回）。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間試験と課題については全体の講評を授業で行います。また優れた課題については授業で紹介することがあります。				
アクティブラーニング	課題として、定期試験や簿記検定試験の予想問題と解説を独自に作って提出してもらいます（計3回）。				
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で18年間、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。				
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。 簿記では4ケタ以上の金額にはカンマを付けるのが原則ですが、シラバスシステムの制約により上のテキスト・教材欄の定価表示にはカンマを付けていません。				